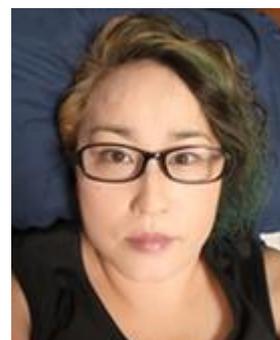


受賞作品「佳作 4 点」

■佳作（4名）

ながた わかこさん（仮名）（51歳） 大阪府在住 EGPA（好酸球性多発血管炎性肉芽腫症）

作品タイトル「今日」（絵画）



<ながた わかこ さんの受賞コメント>

この度は、久しく忘れていた創作の楽しみ喜びを思い出させていただいたことを心より感謝しています。

発症した日から、一つひとつできていたことができなくなり、何もかも奪われていくような、そんな気持ちで過ごす中、たくさんの方々にも助けられました。失うことより、今日ここにある喜びに目を向けられるのも、支えてくれた家族、友人、医療関係の皆さまのおかげです。健康は失いましたが、その何倍も得たこともあります。とはいえ、健康というのはとても大切なものです。今、健康という賜物をお持ちの方はそれを大切に、どうか大切にされてください。様々な疾患と戦う皆さま、体がだめなら心が、心がだめでも魂が元気ならばと、「今日」の楽しみに目を向けて生きてまいりましょうね。

【講評】

社会福祉法人聖母会 聖母病院 皮膚科 部長 小林 里実 先生

難病の発症、突然の出来事で本当にショックだったと思います。

歩けなくなる、目が見えなくなるなど、血管や神経の炎症で突然機能が失われることがあるこの病気、「なんで私が」、とはじめは愕然としたことでしょう。病気が進行する毎日は周囲も見えなくなるほど心が閉ざされていくのですね。それでも心が前を向いた時、ずっと、あなたの心に差し込んだ一筋の光のようにあざやかに浮き上がった光、そこで以前と変わらず蝶々たちが自由に遊ぶ光景を目にした時、閉ざされていた心が溶けていく様子が見事に描写されています。

大丈夫、あなたに生きてほしいと願う家族がいる。あなたの知らないところにいらっしゃる、以前のあなたと同じ想いに打ちひしがれている方々の光になってください。

■佳作（4名）

M・Iさん（仮名）（56歳） 北海道在住 関節リウマチ、好酸球性筋膜炎

作品タイトル「まりもー私は阿寒湖のまりもでいられたー」（陶芸）



<M・Iさんの受賞コメント>

何よりもうれしかったのは、コロナにより、日々感染対策を怠ることなく、緊張の糸を緩めることもできない中でも、いつも安心をもたらしてくださる病院関係者の皆さま、特に長年お世話になっている主治医の先生方、クリニックの関係者の皆さまにこの受賞のお話をさせていただくことができたこと、またご自身のことのように喜んでいただけたことです。いつも支えてくださる陶芸スタジオの皆さま、友人、家族にも明るい話題ができたこと、すべてが何よりの喜びでした。

ニュースで「7年ぶりに低気圧によりまりもが打ち上げられた」と知りました。作品名「まりもー私は阿寒湖のまりもでいられたー」は、まさにこの一見致命的とも思われる自然現象ですが、実はまりもはこれを繰り返し…あの丸い形で長年阿寒湖の底で生息しています。ここに、自分の病気との生き方を映し作品を制作しました。

【講評】

若年性特発性関節炎親の会 あすなろ会 事務局担当理事 牧 美幸 さん

作品を一目見て、「まりもの球体の中にご自身の人生や気持ちが込められているな」と感じました。制作中に作品にひび割れが起こってしまうというトラブルも人生に見立てて、「色々なことはあるけどそれもよし」「全てのことは人生の糧である」「結果よし！」と、感じました。

また、こちらの作品は直径 25センチほど、そして重量もかなりあり、制作にあたり、大変な労力と時間がかかったことと容易に想像できます。病気の治療も同じで、状況を良くするためには、前向きになる気持ちの力と、状況を良くするための時間がかかると思います。「制作にかかる時間=治療にかかる時間」そして「まりも=人生」が表現されていると感じました。

■佳作（4名）

中尾 順子さん（57歳） 岡山県在住 腸管型ベーチェット病

作品タイトル「あなたに守られて」（写真）



<中尾さんの受賞コメント>

私は 40 歳から会社を経営しており、時間に追われる予定をなるべく減らしています。その日その日で、体調の良し悪しはありますが無理をせず、休める時はゆっくりと過ごしています。私は今のところ、目の症状はありませんが、いつ発作が起きても悔いのないようにたくさんのものを見て、感じて、趣味の写真も続けたいと思います。

今回応募しましたホタルの写真「あなたに守られて」は、ホタルの環境を守ってくれる地域の皆さんのおかげで、季節になるとホタルが舞い踊り輝きを放ちます。自然を守っていくことも、私たちが健康で生活できることも、誰かの力をいただいて初めて叶うことだと思うのです。力を合わせて色々なことが実現するのだと思います。今回の受賞を励みに、より一層精進してまいりたいと思います。

【講評】

ベーチェット病友の会 多田 加代子 さん

自然豊かで守られた場所でしか生き残れない希少なヒメボタルが美しく舞い光る姿を撮影した作品。無数のヒメボタルが、小さいながらもストロボのような黄金色の光を点滅させ、美しく光っています。撮影技術もあるのでしょうか、その光が点だけでなく、少し尾を引いた様子にも重なり、とても綺麗で素晴らしい写真です。

作者の方が患っているベーチェット病は、慢性的に症状が急激に悪化したり、日常生活に戻れるほど良くなったりを繰り返すという、経過に波がある珍しい病気です。「あなたに守られて」という作品タイトルにもある通り、自然環境が懸念される中頑張っている華麗なヒメボタルに見守られながら、この病に立ち向かい、心の支えになっている様子が感じられる作品だと思います。

■佳作（4名）

馬目 陽太 さん（42歳） 埼玉県在住 全身性強皮症

作品タイトル「SKATE Boarding has no boundary」（版画）



＜馬目さんの受賞コメント＞

全てを受け入れて。疾患の有無に関わらず納得するために。
「納得することはすべてに優先する。」疾患が教えてくれたこと。
そして、やはり感謝の気持ち、あやまる気持ち、許しを乞う気持ち、愛する気持ち。うまく言えませんが、常に心のどこかにある気持ち、そして、どんな人も何物にも縛られずに自由であること、それを忘れないで生きていく。

【講評】

NPO 法人東京乾癬の会 P-PAT 理事 木戸 薫 さん

この作品を拝見した時、スーッと引き込まれ、描かれている“手”からパワーを感じました。「何のメッセージがあるのか？」とエピソードを読ませていただき、作者のつらかった当時の想いが伝わってきました。当たり前前にできていたことが制限されてしまう状況、病気を受け入れるまでの葛藤、心のあり方は、私と病気は違いますが、共感できる部分があります。

大好きなスケートボードを通じて、勇気や励ましを与えることができる機会があると思います。すべてを受け止める覚悟ができた今、I LOVE のメッセージがとても素敵です。

【参考】

＜アッヴィ 自己免疫疾患 アートプロジェクト「PERSPECTIVES」 募集概要＞

◇募集内容

「テーマ:疾患と生きる。私の新たな可能性」に基づき、自己免疫疾患と向き合いながらも、患者さんご自身の PERSPECTIVES(視点、考え方、物の捉え方という意味)で捉えた心とカラダ、症状の改善などから見出した日々の喜び、新たな目標や希望などを自由に表現した作品と、作品の説明やエピソード(400字以内)を募集。

◇応募資格

自己免疫疾患群(関節リウマチ・若年性特発性関節炎・強直性脊椎炎・尋常性乾癬・関節症性乾癬・膿疱性乾癬・クローン病・潰瘍性大腸炎・腸管型ベーチェット病・非感染性ぶどう膜炎・化膿性汗腺炎など)の疾患をもつ患者さん。

◇応募期間

2020年6月1日(月)～2021年1月15日(金)

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえ応募期間を延長しました。

◇評価基準

作品の表現力、オリジナリティ、メッセージ性やエピソードの内容などの観点から審査します。

◇審査委員 ※敬称略

- | | |
|------------------------------------|---------|
| ● 社会福祉法人聖母会 聖母病院 皮膚科 部長 | 小林 里実 |
| ● 北里大学北里研究所病院 炎症性腸疾患先進治療センター センター長 | 日比 紀文 |
| ● 医療法人財団順和会 山王メディカルセンター 院長 | 山中 寿 |
| ● NPO 法人 東京乾癬の会 P-PAT 理事 | 木戸 薫 |
| ● サルコイドーシス友の会 会長 | 佐藤 公昭 |
| ● ベーチェット病友の会 | 多田 加代子 |
| ● 公益社団法人 日本リウマチ友の会 会長 | 長谷川 三枝子 |
| ● NPO 法人 IBD ネットワーク 理事 | 秀島 晴美 |
| ● 若年性特発性関節炎親の会 あすなる会 事務局担当理事 | 牧 美幸 |
| ● 日本 AS(強直性脊椎炎)友の会 副会長 | 山下 昭治 |
| ● 美術家 | 佐久間 あすか |

◇主催

アッヴィ合同会社